

特許協力条約

発行人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人	
井波 実	様
あて名	
〒 102-0093	
東京都千代田区平河町2丁目3番11号	
花菱イマス平河町ビル4階	
成瀬・稲葉・井波特許事務所	

REC'D 07 APR 2005
WIPO PCT

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日 (日.月.年)	05.4.2005
----------------	-----------

出願人又は代理人 の書類記号	ITR04002	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際出願番号 PCT/J P 2005/000171	国際出願日 (日.月.年) 11.01.2005	優先日 (日.月.年) 08.01.2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl ⁷ C08G65/32、C08G65/30、C08L71/02、 C08B37/16、A61L27/18		
出願人 (氏名又は名称) 伊藤 耕三		

<p>1. この見解書は次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 見解の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第II欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成</p> <p><input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の不備</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願に対する意見</p> <p>2. 今後の手続き</p> <p>国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。</p> <p>この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。</p> <p>さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。</p> <p>3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。</p>
--

見解書を作成した日 15.03.2005			
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 中島 庸子	4 J	3346
電話番号 03-3581-1101 内線 3455			

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	2-11	有 無
	請求の範囲	1、12-29	
進歩性 (IS)	請求の範囲	2-11	有 無
	請求の範囲	1、12-29	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-29	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

・請求の範囲1、12-22に係る発明は、新規性、進歩性を有しない。

文献1: WO 2002/002159 A1 (株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング)、2002.01.10 特許請求の範囲、第8頁2行～8行、第11頁12行～第15頁25行、FIG.2

文献2: 一 貴浩 (Takahiro Ichi) 他、ポリロタキサンを基本骨格とした3次元組織体の調製とその特性解析、日本機械学会 第12回バイオエンジニアリング講演会—新世紀におけるバイオエンジニアリングの役割を考える—講演論文集、2000.01.05、第217～218頁

文献3: WO 2001/083566 A1 (株式会社先端科学技術インキュベーションセンター)、2001.11.08 特許請求の範囲、第19頁16～21行

文献1、2には、少なくとも2分子のシクロデキストリン分子同士が化学結合してなる架橋ポリロタキサングルからなる材料であって、前記シクロデキストリン分子の水酸基の一部がN、N'-カルボキシルジイミダゾール等で置換され、さらにN、N'-カルボキシルジイミダゾール置換基とポリエチレングリコールのビスアミン等を架橋させて架橋ポリロタキサンを得ることが記載されている。

ここで、N、N'-カルボキシルジイミダゾール置換基が、ポリエチレングリコールのビスアミンと架橋せずに残る場合、前記シクロデキストリン分子の水酸基の一部がN、N'-カルボキシルジイミダゾール基、すなわち非イオン性基で置換された状態となる。

文献3には、少なくとも2分子のシクロデキストリン分子同士が化学結合してなる架橋ポリロタキサンであって、前記シクロデキストリン分子の外側に反応性基としてチオール基等、すなわち非イオン性基を有することが好ましいことが記載されている。

よって、請求の範囲請求の範囲1、12-22に係る発明は、文献1-3に記載された発明と差異はない。)

・請求の範囲23-29に係る発明は、新規性、進歩性を有しない。

文献1、2には、さらに架橋ポリロタキサングルからなる材料が水を有し、平衡膨潤状態であること等が記載されている。

ここで、平衡膨潤状態とは、ゲルが特定の形状を保つ状態であるから、文献1、2の架橋ポリロタキサングルはセルフスタンディングできるものと認められる。

・請求の範囲2-11に係る発明は、新規性、進歩性を有する。

第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 25, 26 には、材料の透過率が特定されているが、「透過率」とは何を指しているのかが不明瞭である。

特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

REC'D 07 APR 2005

WIPO PCT

出願人代理人

井波 実

様

あて名

〒 102-0093

東京都千代田区平河町2丁目3番11号
花菱イマス平河町ビル4階
成瀬・稲葉・井波特許事務所

PCT

国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]発送日
(日.月.年)

05.4.2005

出願人又は代理人
の書類記号

ITR04002

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/J P 2005/000171

国際出願日

(日.月.年) 11.01.2005

優先日

(日.月.年) 08.01.2004

国際特許分類 (IPC) Int.Cl⁷ C08G65/32、C08G65/30、C08L71/02、
C08B37/16、A61L27/18

出願人 (氏名又は名称)

伊藤 耕三

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
☐ 第II欄 優先権
☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
☐ 第VI欄 ある種の引用文献
☐ 第VII欄 国際出願の不備
☒ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

15.03.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号特許庁審査官 (権限のある職員)
中島 庸子

4 J 3346

電話番号 03-3581-1101 内線 3455

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	2-11	有 無
	請求の範囲	1、12-29	
進歩性 (IS)	請求の範囲	2-11	有 無
	請求の範囲	1、12-29	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-29	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

・請求の範囲1、12-22に係る発明は、新規性、進歩性を有しない。

文献1：WO 2002/002159 A1 (株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング)、2002.01.10 特許請求の範囲、第8頁2行～8行、第11頁12行～第15頁25行、FIG.2

文献2：一 貴浩 (Takahiro Ichi) 他、ポリロタキサンを基本骨格とした3次元組織体の調製とその特性解析、日本機械学会 第12回バイオエンジニアリング講演会—新世紀におけるバイオエンジニアリングの役割を考える—講演論文集、2000.01.05、第217～218頁

文献3：WO 2001/083566 A1 (株式会社先端科学技術インキュベーションセンター)、2001.11.08 特許請求の範囲、第19頁16～21行

文献1、2には、少なくとも2分子のシクロデキストリン分子同士が化学結合してなる架橋ポリロタキサングルからなる材料であって、前記シクロデキストリン分子の水酸基の一部がN、N'-カルボキシルジイミダゾール等で置換され、さらにN、N'-カルボキシルジイミダゾール置換基とポリエチレングリコールのビスアミン等を架橋させて架橋ポリロタキサンを得ることが記載されている。

ここで、N、N'-カルボキシルジイミダゾール置換基が、ポリエチレングリコールのビスアミンと架橋せずに残る場合、前記シクロデキストリン分子の水酸基の一部がN、N'-カルボキシルジイミダゾール基、すなわち非イオン性基で置換された状態となる。

文献3には、少なくとも2分子のシクロデキストリン分子同士が化学結合してなる架橋ポリロタキサンであって、前記シクロデキストリン分子の外側に反応性基としてチオール基等、すなわち非イオン性基を有することが好ましいことが記載されている。

よって、請求の範囲請求の範囲1、12-22に係る発明は、文献1～3に記載された発明と差異はない。)

・請求の範囲23-29に係る発明は、新規性、進歩性を有しない。

文献1、2には、さらに架橋ポリロタキサングルからなる材料が水を有し、平衡膨潤状態であること等が記載されている。

ここで、平衡膨潤状態とは、ゲルが特定の形状を保つ状態であるから、文献1、2の架橋ポリロタキサングルはセルフスタンディングできるものと認められる。

・請求の範囲2-11に係る発明は、新規性、進歩性を有する。

第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 25, 26 には、材料の透過率が特定されているが、「透過率」とは何を指しているのかが不明瞭である。